

移住体験ツアーを開催 冬のくずまき暮らしを体感

移住体験ツアー 冬の暮らし体感

2月24日と25日の2日間、「第2回くずまき暮らし体感ツアー」が開催され、首都圏などから10組13名が参加しました。

このツアーは、町へ移住を考える人たちが関心を寄せる「くずまきの冬の暮らし」を体験してもらおうと、町とくずまき観光地域づくり協議会の移住・交流検討部会が企画し、くずまき高原グリーンツーリズム推進協議会の協力を得て開催しました。

移住者の体験談に 興味深げな参加者

初日の昼食交流会では、移住・交流検討部会の南館 則江さん（小屋瀬）が、自らの移住体験や学校での少

人数学級のメリットなどを紹介しました。参加者たちは、実際に町へ移住し、子育てをしている南館さんの話に興味深げに耳を傾けていました。

また、くずまき高原牛など町の特産品を使った料理などもテーブルに並び、日ごろ口にするのではない料理をおいしそうに味わっていました。

初のくずまき暮らし 何気ない日常に驚く

参加者たちは、町内の農家や移住者のお宅に分かれて宿泊。受け入れ先の家族らと一緒に郷土食を作ったり、雪かきを体験するなど、何気ない日々の生活を体感しました。

移住に向けた検討 大きな成果を得る

ツアーの参加者の中には「移住に向けて個別に相談したい」と積極的に検討を始める人もおり、町民との交流を楽しみながら実際に冬の暮らしを体感してもらったことで、大きな成果につながりました。

町では、引き続き地域の皆さんと連携しながら首都圏などから移住を希望する人への支援を続けていきます。



宿泊先の牛舎で酪農の仕事体験する参加者の親子

まちなかエリアのイノベーション

「空き家」と「町づくり」の勉強会
住みたい町は自分でつくる！



町を歩くだけでも町外から来た人に楽しそうな印象を与えることができると話す小堀啓さん

くずまき観光地域づくり協議会のまちなか検討部会主催の「空き家とまちづくりの勉強会」は3月12日、総合センターで約30人が参加して開催されました。

始めに、グループごとに分かれた参加者たちは、町の課題について話し合い、人口減少や空き家が多い、魅力的な就業先がないなどの意見を出し合いました。次に、県職員など

4人の講師が空き家を活用した参考事例や町づくりの考え方などに参加者たちは「町づくりは誰でもでき、誰かがやってくれるものではない」「積極的に参加すれば自分が住みたいまちをつくれる」などの話に耳を傾けながら、町づくりのために自分は何ができるのかを考える時間となりました。



今月は…
高野嘉明隊員の活動報告

作り手の思いを 一緒に伝えます



みなさん、こんにちは！「高原牧場観光プロデューサー」の高野嘉明です。

葛巻町に移住して、はや7カ月が過ぎました。おかげさまで葛巻生活を日々楽しく過ごしています。

町民の皆さんにとっては当たり前のことですが、東京から移住した私にとっては、空気も食べ物も本当においしいです。また、少しずつですが町民の方と交流する機会も増え、さまざまなご意見やアドバイスをもらうことができ、とても感謝しています。

仕事面では、2月末から生産現場を知るために畜産研修をし、酪農に関して全くの素人である私にとっては、とても有意義な研修になりました。また、生産現場を身をもって体験することで、1杯の牛乳ができるまでには、たくさんの人たちが関わっていることや牛乳に対する生産者の思いも知ることができました。今

後、くずまき高原牧場内を案内するときには、単に知識を伝えるだけではなく、私が体験したことや生産現場の大変さや生産者を敬う気持ちなども一緒に伝えていきたいと考えています。

間もなく、春ですね。厳しい冬を体験したからこそ、春に対する気持ちがとても強くと感じます。

今後、町内外でお会いする機会が増えていくと思いますので、気軽にお声掛けください。



くずまき高原牧場で研修を受けながらイベント運営の補佐なども手掛けている高野さん

一緒につくろう！ 住み続けたいまち

くずまき観光地域づくり協議会では、くずまき型DMO事業として次の6つの検討部会に分かれて魅力ある町づくりのための活動をしています。

検討部会はどなたでも気軽に参加でき、町に「こんなのがあったらいいな」「こんなことをしたら楽しいだろうな」などのアイデアを出し合い、形にしていく事業です。この町に住むあなたが考える『誰もが住み続けたいまち』を一緒につくりませんか？

くずまき型DMO事業の6つの検討部会

1. 観光PR検討部会
2. 特産品検討部会
3. 若者・高校生検討部会
4. 移住交流検討部会
5. まちなか検討部会
6. スポーツツーリズム検討部会



総務企画課いらっしやいくずまき推進室
☎66-2111内線225